

佛教ぎふ

発行 昭和62年1月1日
岐阜県仏教会事務局
岐阜市西野町3丁目1番地
岐阜西別院内 Tel.67803
編集 出版委員会
1部送料共 80円

何ごとか
おきよつとも
ここにいのちを
いたかくかぎり
道はひらける。
(榎本栄一)

豊かさの中で

儀式を見直す

今「豊かさ論議」が盛んである。何が豊かで何がそうでないかはともかくとして、何しろ豊かなのである。客観的に見れば世界各国との比較、過去の歴史との比較においても我が国が今程自由で平等で豊かさを実感できる時代はあるまい。我々の先祖が今日の日本を見たら腰を抜かすどころではないだろう。その目からはまさしく人類が求めて止まなかった理想郷とつづるかも知れない。しかしながら自由で平等で豊かになれば(進歩すれば)なる程不安が増大する傾向が見受けられるのは一体どうした事だろう。

科学・技術の進歩は次から次へと不可能を可能にし、我々の生活はより安全で、より便利、より快適、より豊かになった。しかし不可能を可能にしてきた欲望は、不可避的に更にまた新たな欲望を生みだし、肥大化し果てては連鎖する。それらの行きつく先の不透明感と変化のスピードは我々の想像をはるかに超え、より安全、便利、快適なものを創り出したつもりが大災害を招き裏切られ、自己増殖を繰り返さざるを得ない。丁度自転車倒れるまでこぎ続けなければならぬ苦しみに似ている。しかし人間の「業」は途中で止める事を許さない。(邪悪なもの)を征伐するには、更に進んだ邪悪なものに待つよりほかなない。

一方、こうした科学・技術と経済の連鎖の中で生きる我々は高度大衆社会を実現させ、その名のものと、高貴なるもの、聖なるもの、神秘的なものまで不真面目、あるいは卑猥な視点から白日のもとにさらし、畏怖し恐怖する心を薄れさせると共に、想像力を減退させつつある。

目に見えない世界(人智)は所詮限られたものであり、その背後には目にも見えない大きな世界が存在している。目に見えるものの中で生活を成り立たせる「文化」と目に見えないものの実在感を源泉とする「宗教」は、共に人間の本性に宿るものでありながら、両者のバランスがくずれたところが現代と未来に対する大きな不安を生じせしめているものと考えられる。しかもこの「豊かさ」に適した思想、哲学がいまだ構築されておらずといえない。これらが相乗効果として働き、なお一層不安を増大する。

それでは、いかにしてこれらを解消すべきか、今こそ永い歴史の重みを耐えて伝えてくれた先人の智慧に学ぶべきではなからうか。

先人達は、人間が自然状態の無秩序からくる恐怖に耐えられないことを知悉し、しきたりや権威を悠久の時間の中で作り上げてきた。私が知るところでも、いくつかの家庭では「仏事」「慶事」や「節句」等には先祖代々伝えられてきた通りの儀式を家中をあげて、それぞれ役割に従ってか

たくり守り続けている人達がいる。儀式はお給仕、お給仕は手間隙と、うやうやしく仏前にぬかずく家庭では、自然に敬虔な心をほぐくみ、色々な問題を抱かえながら、拝み合って生きるあたかさがあり、その宗教的なにおいは、私達をもなつかしい空気をつつんで心安らかにしてくる。こういう世界こそ、先人達が現代に伝えてくれた「家風」というものであり、真の「豊かさ」ではないだろうか。

決してむつかしいことではなく、誰もが記憶の蓄積として持っているはずの事がらであり、今日からでも簡単に出来る易行である。無秩序の中で墮落しやすいのは私一人であろうか。現代人はあらためて「形」を求め始めた予感があり、「大衆社会」の中に埋没した「権威」を再認識する時が来たことを痛感する。

(那波)



仏縁をたいせつにして

—全日本仏教会推薦議員との懇親会—
わたしたちも仏教徒です。



昨年十月二十九日午後五時半より東京赤坂プリンスホテル別館3Fクイーンホールにて全日本仏教会主催の衆参同日選挙に際して推薦した衆議院議員百四十三名、参議院議員二十四名、外関係ある議員、文化庁その他を招待して全日本仏教会に加盟する宗派別仏団体の各重役百八十名の大本懇親会パーティーが開かれた。岐阜県仏関係からは杉山宗徳顧問、和田耕正元県会長、大谷派宗議会議長と橋理事が参加した。

ふる雪に みちはたゆとも 暁の
かねをしるべに いそげみな人

定刻は五時半だった多忙な議員たちは壇上に起って皆様に二挨拶をさせて下さると若槻全日仏理事長の歓迎の挨拶まで到着順で挨拶の挨拶まで理事長の挨拶の終るまでに代議士さんが雲集し壇上に三重に並び壇側にも起って一括団体挨拶、主我の乾杯も破れんばかり、宗派別や府県別や話はずむ、壇上には各員師匠寺の門徒総代を代々勤めており、朝晩の仏壇参りなど、厳びしい様子を懐つつかしく語り、ある北陸の前文相など、今でもお経を言えと言われれば御文章までも暗記していると豪語されるなど、桜内義雄長老議員など、私は日蓮宗の門徒代表じゃと言った、お前は何処かの高僧じゃなかったとやじられるほど高僧らしく、みなさまと親近感が厚く、その高僧さまがいただかれるお布施にまで税をかけるまいと一生懸命に努力している。と満堂を沸かし、和やかに、終始せられた。今夜の衆参議員を招待しての懇親会は時宜はきわめてよき企画であった。百六十七名の代議士が一堂に会し

全日本仏教会推薦議員との懇親会



このころのゆとりが感じられる風格がある。かつて、西本願寺連枝大谷尊由台下が拓務大臣となられたことがある。開議に大谷さまが列せられると心のゆとりがある。スムーズに流れるように、だだだだ消息通から聞いたことがある。現在、衆参議員中唯一の住職議員はわが県仏の杉山顧問であり、ゆとりある百六十七名の門徒総代とはからって、ゆとりあるニューリーダーとしての動きが、始動がある。いいではないか、全日仏の全一運動をこの一面でも強く要望しておきたい。

旋風打

▽NHKテレビの幼児番組「お母さんといっしょ」で大きな木の幹がこわいような声で話しかけている。
▽あれは幼児に畏れの何かを感じさせるのに大変いいのではないかとと思う。

▽古い先祖から人間はさまざまの恐れと畏れをいだいて生活し歴史を歩んできた。風雨や雷・闇、森や海山など自然と自然現象・それに動物や外敵・魔物・人の老病死、師長・あるいはいのちそのもの・それらは恐れされるものであった。
▽やがて歴史の進歩と科学技術の発達で人間の恐れを克服すると共に畏れれを見失わせてしまった。自然は征服され大切ないのちさえも操作できずすべてが思うままになると錯覚しているのが現代人ではなからうか。ずいぶん前から「神は死んでしまった」ともいわれられている。

▽そこに今日、自然破壊や公害、あるいは社会や家庭の崩壊・犯罪などがひき起される要因がある。
▽まだ近年まで夜の燈も風呂水も貴重であったつつましい生活が、恐れるものなくすべて物は無限にあると錯覚し、人間関係にあつても畏敬すべき師長や父母も存在しなくなりがごとく、ただ無分別に横着になつてはいないだろうか。

▽哲学者カントは「驚嘆と畏敬の念を以て心を満たすものが二つある。私の上なる星空と、私の内なる道徳律である」といった。いたずらに何でも恐れ畏れるのではなく、私たち人間がほんとうに畏るべきものが何であるかをいま知らねばならない。

▽「末代の道徳よく己れが分を思量せよ。無明のさばり生きる私たちに、真実の宗教は畏るべきものの何かを知らしめ、そこに生活せしめるものである。」

(藤田)

あたらしく 毎日を生きる

真宗大谷派
岐阜別院
輪番 藤谷 信雄
岐阜市大門町一番地
電 岐阜 六二一三三八〇

浄土真宗本願寺派
岐阜別院
輪番 横河 諦了
岐阜市西野町三丁目一番地
電 岐阜 六二一〇二二一

臨濟宗妙心寺派
瑞龍寺
輪番 清田 保南
岐阜市寺町十九番地
電 岐阜 四六一二五九七

